

様式 5

平成 29 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 30 年 1 月 18 日

学 長 殿

所属部局・職名

共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 石岡 賢

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・ <u>学会参加</u>) 学術振興に関する事業 (<u>学生</u> ・事務職員・その他の特別事業)
事業名	2017 Asian Conference of Management Science & Applications (ACMSA2017)
事業実施期間	平成 29 年 12 月 25 日 ~ 平成 29 年 12 月 28 日
成果の概要	<p>中国福建省福州市にある Crowne Plaza Fuzhou Riverside hotel で開催された 2017 Asian Conference of Management Science & Applications に参加し、学生と共に報告した。</p> <p>ACMSA は企業経営に関わる様々トピックを扱っており、ERP、環境対応、人的資源管理、ロジスティック、サプライチェーン、サービス、技術経営などが含まれている。今回の学会では、5つの基調講演が設けられ、その他に18のセッションが開催された。基調講演では、社会システムにおけるオペレーション調査やビッグデータを活用したファイナンス、セルフサービス技術における顧客満足度などのテーマに沿った講演を聞くことができ、他分野の研究成果についても触れることができた。</p> <p>今回の発表は Business Management のセッションの中で報告した。発表のタイトルは、"Study on Strategy Concept of Product/Service Differentiation with Value-in-Use"である。本研究の内容としては、新たな競争要因として Value-in-Use に着目し、Value-in-Use を基にした競争戦略のコンセプトを立案した。Value-in-Use は従来価値創造の概念とは異なる新たな価値創造の概念として提示されている。本研究では、Value-in-Use の定義について、従来価値創造のコンセプトとの違いや顧客経験価値との比較によって明確にした。そして、Value-in-Use の概念を基にした戦略コンセプトとして、3つのコンセプトを立案した。コンセプトを検討する際には、サービス・マネジメントにおける Reliving Logic and Enabling Logic と顧客のコストの概念を取り入れた。発表後の質疑応答では、貴重なコメントを得ることができた。</p>